



満月の宵に思うこと

今年はひとしお暑い夏でしたね。皆様方には如何お過ごしですか。お問い合わせ申上げます。ようやく猛暑から解放され日も短くなると月夜が心にしみる頃となります。一月は二十二日が満月の予定ですね。お祝進様が婆羅双樹の下で涅槃に入られた際の夜も満月が登っていましたそうです。今宵見る月。と同じ星を何年も昔の人も見ていたんですね。

最近息子の漫畫で「聖☆おにいさん」と言うのを読みました。ブツダとキリ

ダと初めて出会い興味を持つてくれて行く行くはご先祖様を大切に思う敬虔な仏教徒で育つてくれるのではなく大きな間違いなのでしょうか。しかししながら手塚治虫さんの「フッターモうすですが漫画というのは思いのほか生活中に浸透していく、色んな世代に色んな世界を見せてくれるのですね。

最近は、家に仏壇が祀られていて毎朝御灯明を上げ御供えをするという家庭がどんどん減ってきています。身近に仏様が少なくなっています。

ストが天界から降りて休暇を過ごすために東京のアパートで共同生活をする」という奇想天外な漫画です。結構若い人達に人気らしく、売れている爔ものです。「最近の若いからは神持ちも……」なんて少しイラッとしたながら読むと、結構面白いので驚きました。ブツダもキリストも携帯やコンピューターを使いこなす最近のお兄さん風に描かれてますが、要所要所はある意味で正しくて、今風にブツダの足跡を解釈するところなんだと、改めて教えられました。若い子達がこの漫画でブツ

ら……」とお尋ねがあり、返答に困りました。システム……新しい表現です」と、お布施はどのようにおきつた、「お布施はどのようになりますか?」と仰りたかったんだろうと思ひます。しかししながらお布施というのは代価ではなく、慈悲の心をもつて他人に財物などを施すという事で、この解釈のほうが最近の葬祭業者との軋轢を生んでいる原因なのかもしません。多ければ良いという物でもない、無くて良いものでもない。身の丈に合った物でよい。と、私は考えます。

まさに新しい時代への転換期なのがい

を合わせる事から始めましょうか。そして今の自分を思い返して何が足りない

西国の觀音靈場は現世利益¹を求めてお参りになる方が多いです。つまり生きている内に觀音様のお慈悲を受けたりたい。と言った事ですね。これは、大変解りやすいと思います。

ここにも仏教への入門の糸口があるのかと思われます。とりあえずお寺で毛

発行
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.mariash.jp/>

山内願社 内五回

撞かずの鐘

今回は境内の石段途中にあります、撞かれるのは何時になるのかは解りませんが……。

七年の開山記念の年に一日だけ撞きました。その音色は思いの外美しく、山内に響き渡りました。伝説の赤子の供養も致しました。次回この鐘が

慶長十四年（一六〇九）山主、賢長は新しい鐘を鋤造するため、近郷近在に淨財を求め喜捨を募った。「一回、二回と鋤造に失敗し、三回目の寄進を募った時、裕福そうな家の女房が『子供は沢山おるがお寺へ寄付する金はない』と険しい目の色で断つた。

やがて鍾鋤造の日、大勢

の人の中に例の女房も乳児

児を抱えて見物していた。

そして鍋湯となつたルンボ

の中に詰つて乳児を落とし

ってしまった。このような悲

劇を秘めて出来上がった鐘

を撞くと山々に美しい音色

を響かせていた。しかし耳

を澄ますと子供の泣き声、

母親を呼ぶ悲しい声、聞い

ている人々はあまりの哀れ

さに子供の成仏を願つて一

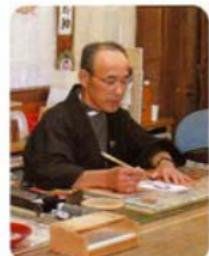
切この鐘を撞くことをやめ、

撞かずの鐘となつた。



(成相寺：戦前 絵はがき)

西漢三所ノ所内第一番アリ
ミサハモニヨウハコ、ズバ、其
所人アリヨリタナカシ中
文義ナオロク、境内ニ左近品ガ
カツダラセセ「ヘジローナヘ
スサナセセ」



今は、勤続十二年になります
和田さんです。お写経の担当をさ
せて頂いておりますので、ご存じ
の方も多いと思います。

御縁つながり



こんにちは、和田です。私は趣
味がマラソンで、富士山登山マラ
ソンや地元の大会には参加します。
毎日、本堂での仕事の後に成相の
山を駆が岳までトレーニングで走
ります。季節ごとにいろいろな顔を
見せてくれる山や宮津の自然は本
当にすばらしいです。

私が担当しております写経も、
皆様がんばって書いて頂いており
ますので随分と巻数も増えてきて
おります。長い間お世話になつて
いますご頼居様や新しく始められ

た方、皆様文字の中にお人柄が伺
えて、私も継続することの大切さ
偉大さを学ばせて頂いております。
どうぞ、お参りの際にはお声をお
掛け下さいませ。有難うございま
した。

昨日、私の姪の結婚式で京都の泉涌寺の塔頭の一つであります即成院さんにお参りさせて頂きました。最近は神前やキリスト式の結婚式が殆どで仏前結婚は珍しいですね。仏前結婚が始まったのは、明治三十一年とされおり、そんなに昔から的事でないのです。そもそもお坊さんは結婚しませんでしたから。でも仏式の結婚式といふのは高家先祖に見守られて誓いを述べ一

緒の墓に入る覚悟をする、と言う良い式であると思います。即成院さんは平家物語で登場します扇子をうで射たと言う「那須守市」の墓所として有名な真言宗のお寺で、阿弥陀如来像をはじめ二十五菩薩像（国の重要文化財）が内陣に安置されておりました。大きな阿弥陀さんは乳高いお顔で成相の阿弥陀さんより、ふっくらしておられます。仏様方に見守られて結婚式を行つた姫は良い縁に巡りあえて幸せです。子供が出ると私は大舅父さん、楽しみです。

納経所だより